

令和7年度 市長とセットトーク意見交換要旨

開催日：令和7年10月5日（日曜日）19時～20時

開催場所：今城コミュニティセンター

団体・グループ名： 今城ママ友会

テーマ：まちづくり、産業・観光、健康・福祉、環境、安心・安全

（訪問理美容サービス費用助成金について、市道に面している田んぼ（法面）の草刈りについて、街灯と柵の設置について、赤穂線の運行本数についてなど）

★意見交換要旨★

・訪問理美容サービス費用助成金を出してもらえないか。自宅で介護を受けている人や免許返納などの理由で外出が困難な市民を対象に、年間数回でも構わない。現在は迎えに行って理美容室に連れて行くか、美容師が直接訪問して対応しているが、理美容はボランティアで担っており、技術的課題や後継者不足、地域の理美容室の減少により持続的な運営が難しい。実際に行っている自治体もあるので、瀬戸内市でも実施してほしい。

（市長）

ご要望として承る。補助金は、理美容に限らず、予算規模や補助対象の公平性などを総合的に検討する必要がある。また、施策につなげるには、多くの市民がその施策を必要としていることが重要であるため、例えば署名活動などを通じて需要の実態を明確にし、市に対し具体的な要望を提出いただくなど、色々なご提案をこれからもいただけるとありがたい。

・農地に面している市道の法面の草刈りを市に依頼したい。特にブルーライン沿いでは、地域の農家が草刈りを行っているが、高齢者も多く負担が大きく、時間と手間がかかり困っている。

（市長）

ブルーライン沿いなど、道路周辺の草刈りについては、県道であれば県が、市道であれば市の対応になっており、財源の制約もあり優先順位を付けて調整しながら適宜対応しているところ。市道に関しては、年に1回以上の草刈りを予算に基づいて実施しており、それ以上の対応は自治会からの要望が必要となる。具体的な該当箇所について市に要望を出すことができるが、税金を使用する以上、自治会の合意を得て「地域としてこうしたい」という意見であることが必要であり、「大変だから」という個人の要望では対応が難しい。実際に具体的な範囲を明確にした要望を、まずは自治会から土木委員を通じて提出していただきたい。

- ・夜道を歩く子どもが危ないため、街灯を増やしてほしい。道が暗く帰宅中の子どもが誤つて柵がない用水路へ落ちたこと也有ったため、柵も作ってほしい。

(市長)

街灯を設置してほしい場所について、市で設置の対応が可能な路線と、自治会での調整が必要な路線がある。市で対応可能の路線については、ほぼ整備ができていると認識している。追加で設置を要望する場合は、自治会等で事前に意見を調整しましていただき、地域の要望として提出いただきたい。自治会での設置の場合、市が設置費用を一部補助しているのでその制度をぜひ活用いただきたい。

道路の柵についても同様に自治会を通して要望を提出していただきたい。市民の皆さんからの要望の優先順位として、人命の安全確保を最優先に対応していくため、場所と一緒に子どもが川に落ちた事実などを一緒に要望を挙げていただきたい。

- ・赤穂線の運行本数を増やしてほしい。

(市長)

市としてもJRに要望し続けている。市は「人が集うまちづくり」を目指している。そのために交通利便性は重要で、JRとの議論のために具体的な計画を提示することを考えている。「こういった取り組みが需要の増加につながる」という提案をセットにして要望を行う方針である。具体的には、JR駅前駐車場の増設、JR駅発観光バス路線の新設、観光プロモーション活動の強化などを通じて観光客、赤穂線利用者の増加を図る仕組みを構築し、それによって増便を目指している。JRのダイヤ改正に向けて、市も観光開発など利用者増につながる施策を進めることで、少しでも増便となることを目指している。長船駅発着の増便をはじめ、皆さんからいただいた意見はJRに要望していく。

- ・地域の高齢者から防災無線が聞き取りづらいとの意見が出ている。改善策はないか。

(市長)

聞き取りづらいというご意見をいただくが、市の方針としてお願いしていることは「瀬戸内市防災アプリ」をダウンロードして利用いただきたい。アプリの利用が難しい人には、危機管理課から防災無線用の戸別受信装置を貸し出しているのでぜひ利用いただきたい。

- ・このことを広報紙で広く周知してほしい

(市長)

来年度以降、市の取り組みなどの広報活動を積極的に行う専門部署の設置を目指している。

・高齢者が歩いて通うことができ、フットケアなど理美容のケアを受けることができる集まりの場、健康寿命を延ばす楽しみの場があればいいなと思う。理容師が各地域で実施できる案として、市から場所やトラックなど提供できないか？

(市長)

提案いただいた内容を実施できる可能性がある方法として、ふるさと納税型のクラウドファンディングがある。

市の行っているプロジェクト「人と猫が幸せに暮らせるまちづくりのために～猫の一代限りの命を大切に守りたい～」のように、市に提案し、市が補助を実施する事業としてプロジェクトが立ち上がり、市が主体となるこの仕組みを活用すれば、個人名義よりも資金を集めやすくなる可能性がある。方法の1つとして検討いただきたい。

実施する場所などの提供に関しては、公民館などの施設以外で、市役所の駐車場などを土日に民間開放して活用できるよう運用の準備を進めている。近くにそのような場所がない地域の高齢者へは、市の実施しているタクシー券の交付や市営バスの充実を図り支援を続けていきたい。

・図書館に行く子どもが多いので、図書館をはじめ市内で高校生が飲食できる場所を提供してほしい。

(市長)

図書館に関しては、館内での食事等の提供は難しいが、邑久駅前の活用を検討していく、機会があるごとにお店をしませんかと色々な場所で宣伝している。高校生の利用を見込んだ店の出店もアイデアとして考えており、邑久駅前での出店を提案している。

店舗以外の具体案としては、邑久駅前の立地を活かし、市役所駐車場を全面開放して複数の店舗を並べるマルシェの開催を考えている。市外からの訪問者も増え、さらに民間企業が立地条件に魅力を感じて店舗を開きたくなる場所づくりを目指している。そのためには、まず地域の人口を増やし、活気のある環境を整備することが重要と考える。

・イノシシが増えすぎていることに対して改善策はないか。イノシシ獣に対する補助金体制も教えてほしい。さらに捕獲後の有効活用として、イノシシのジビエで店を開き、それを売っていくのはどうか。

(市長)

市は鳥獣被害対策に予算を増やして力を入れており、捕獲用の檻の購入費用に対しては補助金を出すように検討している。獣銃免許の取得費についても市の補助金があるので活用いただきたい。

捕獲したイノシシを飲食店でジビエとして取り扱うには、生け捕りにして肉の鮮度を保つことや仕入れの安定性が確保が必要であるため、広めていくためには知識や技術の面で課題がある。現状、担う人材がいないのですぐに実現することは難しいが、その

ような人材がいることが分かってくれば、補助金の対象として検討する可能性もある。